

岐阜県経済の現状のポイント（平成 25 年 6 月分）

【景況感】

景気動向は停滞しているが円安の影響を受けて一部に明るい兆し

【製造業】生産、売上げは一服感があるが、一部は上昇

- 製造業全体では、円安により収益面で改善傾向にあるものの、原材料価格の上昇が生じている。受注や生産が増加するなど、比較的明るい声が多い。
- 生産用機械においては、引き合いが増加するとともに、国内企業からの受注が出始めている。

【地場産業】最近は厳しい状況が続いている

- 木工で明るい声も聞こえたが、依然として消費意欲の減退や海外製品との競合、原材料費の値上がりなどにより厳しい状況が続いている。

【消費】緩やかな増加傾向が続くも力強さに欠ける

- 天候が良かったことから、夏物の衣料品の売上げが好調であった。また、食料品の売上げは前年並みであった。

【観光】総じて前年の水準を概ね確保

- 観光は、総じて前年の水準を概ね確保しており、夏休みの予約が入る施設も徐々に見られる。インバウンドは台湾やタイなどアジアで好調な動きが見られ、宿泊客を底上げ。

【雇用】求人及び内定は改善傾向

- 受注量の増加から残業が発生している。正社員の雇用については専門職や即戦力の人材を求めているが、採用に苦慮している企業が多い。
- 平成 24 年度の高卒者の就職率はほぼ横ばい。大学・短大卒者については、前年度より内定率が改善。

【設備投資】設備投資意欲は増加するものの実績は横ばい

- 設備投資の理由のうち「補修・更新」といったやむを得ない理由が増加し、「生産能力拡大・売上増」といった前向きな設備投資が減少した。一方で設備投資意欲DIは、改善傾向。

【資金繰り】資金貸付実績及び借入意欲は依然として低い

- 企業の資金繰りは、改善傾向が一服し、ほぼ横ばい状態にあるが、新規借入れ需要は依然少ない。